

報告・協議 3

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の概要について

このことについて、別紙のとおり報告します。

令和6年8月9日

広島県教育委員会教育長 篠田 智志

令和6年度全国学力・学習状況調査結果の概要

1 調査実施期日

令和6年4月18日（木）

2 調査実施学校数（県内公立学校）等

	調査実施学校数	集計対象者数
小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年	451校	22,601人
中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年	239校	20,038人

3 教科に関する調査の結果

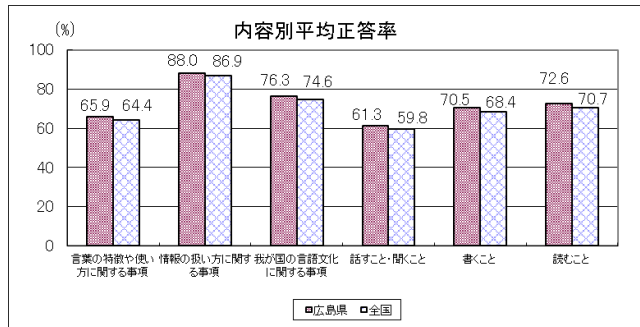
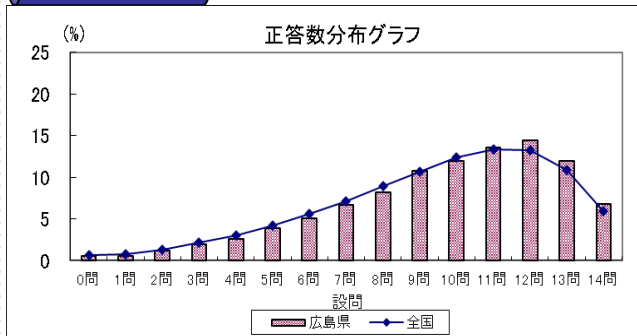
- 小学校は、国語及び算数において、平均正答率が全国を上回っている。
- 中学校は、国語において、平均正答率が全国と同程度である。数学において、全国を下回っている。

		小学校		中学校	
		国語	算数	国語	数学
平均正答率 (%)	広島県 (公立)	69	64	58	52
	全国 (公立)	67.7	63.4	58.1	52.5

1 小学校 国語

○ 国語については、平均正答率が69%で、全ての内容において平均正答率は全国平均より高い。

国語



正答率上位2問

- 【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものと
して、適切なものを選択する
(設問 2- (2)) 88.0% (全国 86.9%)
- 高山さんが文章に書くことを決めるために、ど
のように考えたのかについて説明したものと
して、適切なものを選択する
(設問 2- (1)) 81.1% (全国 80.3%)

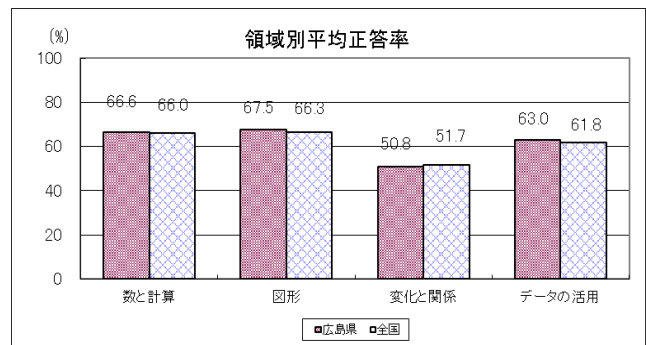
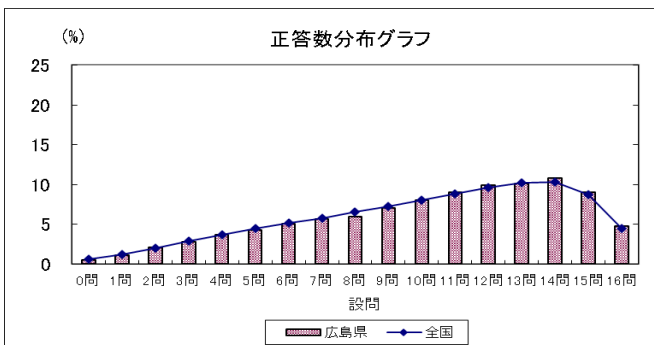
正答率下位2問

- 【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使っ
て書き直す(きょうぎ)
(設問 2-三ア) 44.7% (全国 43.4%)
- オンラインで交流する場面における和田さん
の話し方の工夫として適切なものを選択する
(設問 1-二 (2)) 54.1% (全国 52.9%)

2 小学校 算数

○ 算数については、平均正答率が64%で、領域別では「変化と関係」の平均正答率が全国平均より低く、その他は全国平均より高い。

算数



正答率上位2問

- はじめに持っていた折り紙の枚数を口枚とした
ときの、問題場面を表す式を選ぶ
(設問 1 (2)) 88.1% (全国 88.5%)
- 作成途中の直方体の見取図について、辺として
正しいものを選ぶ
(設問 3 (1)) 86.8% (全国 85.5%)

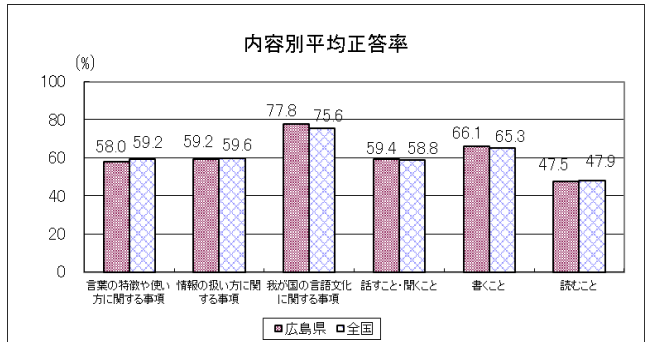
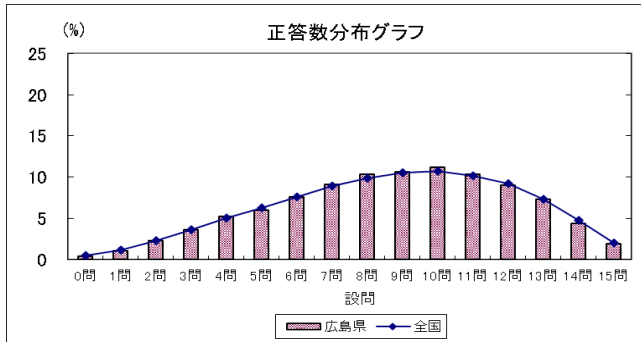
正答率下位2問

- 家から学校までの道のりが等しく、かかった時
間異なる二人の速さについて、どちらが速いか
を判断し、そのわけを書く
(設問 4 (3)) 30.4% (全国 31.0%)
- 直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積
を求める式を書く
(設問 3 (3)) 37.6% (全国 36.5%)

3 中学校 国語

○ 国語については、平均正答率が58%で、内容別では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」、「読むこと」の平均正答率は全国平均より低く、他の内容は全国平均より高い。

国語



正答率上位2問

- 物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したのとして適切なものを選択する (設問 3一) 81.0% (全国 81.4%)
- 行書の特徴を踏まえた書き方について説明したのとして適切なものを選択する (設問 4三) 77.8% (全国 75.6%)

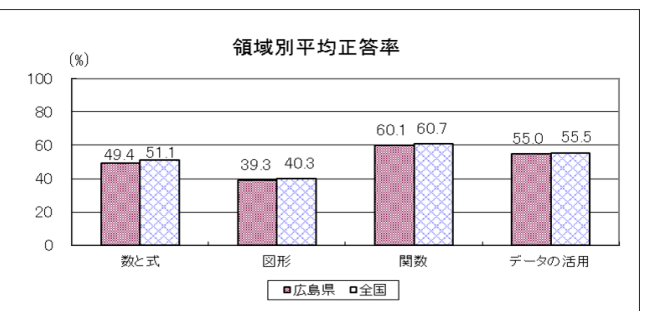
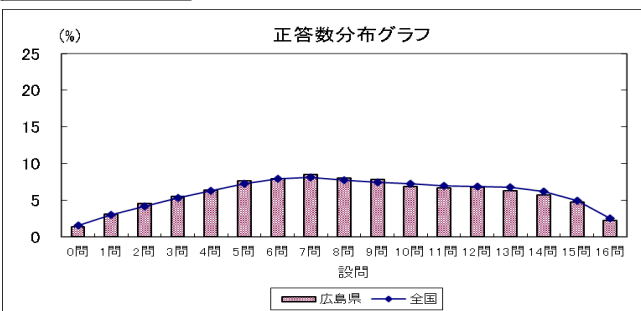
正答率下位2問

- 本文中の図の役割を説明したのとして適切なものを選択する (設問 2一) 35.3% (全国 36.3%)
- 本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する (設問 2四) 42.4% (全国 42.6%)

4 中学校 数学

○ 数学については、平均正答率が52%で、全ての領域において平均正答率は全国平均より低い。

数学



正答率上位2問

- 正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める (設問 6(1)) 90.4% (全国 90.2%)
- ストープの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ (設問 8(1)) 83.6% (全国 83.4%)

正答率下位2問

- 18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する (設問 8(2)) 17.4% (全国 17.1%)
- 車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する (設問 7(2)) 24.8% (全国 25.9%)

課題が見られた問題（中学校数学）

日常的な事象における問題について、関数の関係に着目し構想を立て、解決すること

8 (2) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題

- 8 第一中学校の文化祭では、会場の体育館を暖めるために、灯油を燃料とする大型のストーブを設置します。文化祭当日は、体育館を6時間使用します。文化祭の実行委員の結衣さんは、18 Lの灯油が入ったストーブの使用計画を立てることになりました。ストーブの説明書には、次の情報が書かれています。

説明書の情報

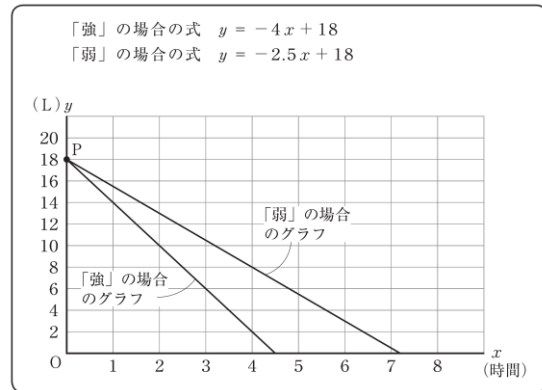
ストーブの設定	強	弱
1時間あたりの灯油使用量(L)	4.0	2.5

結衣さんは、ストーブを6時間使用して、18 Lの灯油をちょうど使い切るように、「強」と「弱」の設定の組み合わせを考えたことになりました。そのために、18 Lの灯油が入ったストーブの「強」の場合と「弱」の場合について、ストーブの使用時間と灯油の残量の関係調べることになりました。

そこで、結衣さんは、説明書の情報の1時間あたりの灯油使用量は常に一定であるとし、ストーブを使用し始めてから x 時間経過したときの灯油の残量を y Lとして、「強」の場合と「弱」の場合の x と y の関係をそれぞれ $y = 18 - 4x$ 、 $y = 18 - 2.5x$ と表しました。そして、この2つの式をそれぞれ $y = -4x + 18$ 、 $y = -2.5x + 18$ と表し直し、次のページのようなグラフをかきました。

平均正答率
 広島県 17.4%
 全国 17.1%

ストーブの使用時間と灯油の残量



- (2) 前ページのストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18 Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$

イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

【主な正答例とその反応率】

〈アを選択した場合の正答例〉 広島県 7.3% 全国 9.1%

- 「強」の場合の式と「弱」の場合の式について、それぞれの式に $y = 0$ を代入し、 x の値の差を求める。

〈イを選択した場合の正答例〉 広島県 10.1% 全国 8.0%

- 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、 y の値が0のときの x の値の差を求める。
- 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、 y 座標が0のときの2点間の距離を読み取る。

【主な誤答例とその反応率】

〈アを選択した場合の誤答例〉 広島県 12.1% 全国 11.6%

- $y = -4x + 18$ と $y = -2.5x + 18$ の差を求めればよい。
- 「強」と「弱」の場合の式で連立方程式を解き、出てきた x の値がストーブの使用時間の差となる。

〈イを選択した場合の誤答例〉 広島県 11.8% 全国 10.2%

- グラフを見ると、灯油を使い切るのに「強」よりも「弱」の方が1.5倍くらいの時間がかかる。

【指導改善のポイント】

⇒ 日常生活や社会の事象を、数学を使って考察する場面を取り上げ、問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。その際、数学を活用する方法を説明できるように指導することが大切である。

このような説明ができるようにするためには、例えば、解決の方法として表現が不十分な説明を取り上げて、問題解決の見通しを共有した場面や問題解決の過程を共有した場面を振り返りながら、十分な説明にしていく場面を設定することが考えられる。